

袋とじ 爆騰予言王・「ミスター3倍株」がついにその手法を公開した!
 キクチ氏の資産3億円をつくる技術

17冬

エン・スパ

115 2017 定価980円 臨時増刊

2016年12月15日発行通巻3519号
 1952年2月23日第3種郵便物認可

別冊付録
 金運アップ!!
 タオ風水で
 勝利を掴め!
 投資カレンダー
 2017

億超えを
 約束する

爆発的
 トレードテク
 Best 15

進化した「東大院FX」勝利の方程式
 激アツ!「マイナー通貨」には必勝法があった!!
 優待タダ獲り!「クロス取引」の極意

100%得する
 「ふるさと納税」
 最強自治体「6選

表紙の人
 馬場ふみか

達人が伝授

FX初心者

悩み解決「道場」

超格安で「ファーストクラス」に乗る裏技

超片手間でもできる「不動産投資」の神髄

月10万円儲かる転売メソッド最新ガイド

事情通がこっそり教える

2倍成長株「100

世間的には無名だけど株的には 優良銘柄企業」のオフィスに行ってみた

CoinTip

フィンテックに加え、AI関連の銘柄に注目

いち早く成長企業を見つけていることが勝負を決める投資の世界では、世間的には無名でも優良銘柄として名前が頻りに挙がる企業が多々ある。

企業がいかに勢いを増していくと思えます。(フィスコアナリスト・田代昌之氏) というように、革新的な技術を持つ新興企業は常に注目すべき存在だ。もちろん、新興企業だけではない。専門性の高い老舗企業も、「テーマ株」として浮上してくるケースもある。

本道路などがそれに当てはまります。果たして、「優良銘柄」企業の素顔とはどのようなものなのだろうか？大人の社会科学見学にレッツゴー！



田代昌之氏アナリスト
新光証券、外資系銀行、生保を経て、'10年フィスコに入社。株式市場、個別銘柄を担当

マ-6172

メタツプス

ニチガスとの提携で脚光を浴びる

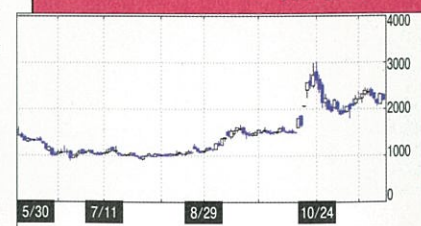
「9月には約1100円だったのに3000円まで上昇、現在(10月上旬)は2200円と、このところ株価が大きく動いている会社です」

田代氏がこう話すメタツプス。株価上昇の背景は、同社と日本瓦斯(ニチガス)が業務提携したことだ。ただ、田代氏も「投資家は値動きだけに着目し、どのような企業が深くは理解していないのかも」と言うようにその業務内容はピンとこない。

西新宿の高層ビルの一角にあるオフィスは、外国人スタッフが行き交い、来客対応に現れるのは30歳前後の若い社員ばかり。事実、学生時代に同社を立ち上げたという代表取締役の佐藤航陽氏は現在30歳だとか。そんな若きベンチャー企業がガス販売大手と提携と

は一体どういうことなのか。「弊社はスマホアプリの使用状況分析サービス提供から始まっており、今もデータ分析をもとにした企業の意思決定サポートが主な業務です。その過程で、データ収集が可能なオンライン決済に参入したり、データ分析を生かしたAIの開発なども手がけています」(執行役員の荻原充彦氏)

目標値	3500円
買い時額	2300円
損切り	1400円
PER	—円
PBR	5.52倍
配当利回り	—%



「ザ・IT系ベンチャー」というオフィスの空気から、ガス会社とのコラボレーションを想像するのは難しい

IT技術とAIを組み合わせた企業の代表例！ニチガスとの業務提携も、こうした同社の強みを捉えてのものだ。「来春のガス自由化を控え、ニチガスさんの競合他社との差別化サポートが我々の業務。今までは紙ベースがほと

んどだった支払のオンライン化や、AIを活用したチャットボットでのお客様対応などに弊社の技術を活用していきます。また、ガスの価格は為替変動や天候などの外部要因に左右されやすいのですが、先読みが難しいため小売

価格に反映させるのは半年後くらいが精一杯でした。今後はデータ分析を活用し、外部要因を先読みした価格設定もできればと考えています」ガス料金の支払いといった身近な面にも、新興企業は参入しているのだ。

いい生活

東2-3796

巨大市場の不動産業界をIT化

「00年の創業から、わずか6年でスピード上場を果たしたいい生活。ほんわかした名前とは裏腹に、実は業界の最先端をいく企業なんだとか。

「不動産クラウドシステムのサービスを提供している企業です。ITの要素がありながら注目度はまだ低く、不動産関連株が低迷している今こそ注目です」(前出・田代氏)

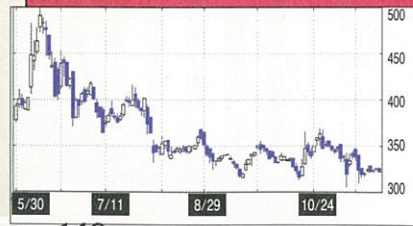
麻布にある本社を訪ねると、実は

創業メンバーで代表取締役の4人は、ゴールドマンサックス社の出身。なぜ金融業界の人間が不動産業界に？「金融業界は90年代後半の金融制度改革で大きく進化し、プレイヤーも巨大化する中で、ITへの投資も進みました。一方で不動産業界はGDPの約13%を占める巨大市場を持ちながら、大多数が中小企業。商材も地域性が高く、ITへの投資が進みませんでした。し

かし、商材は不動産という情報であり、データベースとして扱うことに親和性が高い。そこで不動産市場にITを届けるために立ち上げた企業なんです」

そう話すのは代表取締役副社長の塩川拓行氏。同社はクラウド型システム「いい物件One」で、「物件情報」「データベース構築・管理」「顧客情報管理」「ホームページ構築ツール」といった、不動産業務に必要なシステムをクラウド

目標値	500円
買い時額	300円
損切り	250円
PER	20.16円
PBR	1.4倍
配当利回り	1.5%



今年8月に東証2部に市場変更。不動産業界に特化したクラウドサービスの自社開発が特徴。不動産関連銘柄はアベノミクス相場直後、大きく伸びるも近年はやや沈静化

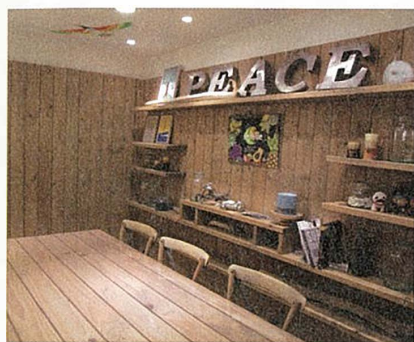
株価もクラウドソリューション事業の売り上げも現在は安定横ばいだが、業界全体のIT化の進展も見込み、早めに仕込むのもアリかも。

ドサービスで提供している。これにより、不動産会社は情報の一元管理が可能になり、自前でのシステム構築も不要になるためコストカットもできる。最近では消費者も物件情報をネットで見るのが普通だが、不動産会社側のIT化も進んでいるというわけだ。「ただ売買分野のIT化はまだ不十分です。近年は国を挙げて中古の売買物件の取引量を高める動きもあり、IT化も大きく進むはず」(塩川氏)

アイモバイル

マ -6535

創業は'07年、東証マザーズへの上場からは1か月ほどという株式会社アイモバイル。同社は創業以来アドネット



社内の華やかな雰囲気からは、「幻のグルメ」を探して全国を飛び回る姿は想像できない

ふるさと納税サイト運営は過酷?

ワーク、特にスマホなどへの広告配信を手がけてきた「新興」の企業だ。田代氏が「根強い人気のあるインターネット広告関連銘柄で、上場当初は動画広告サービスといった新事業への期待感が強かった」と語る同社。なかでも注目されたのが、ふるさと納税ポータルサイト「ふるなび」の運営だ。同社を訊ねると、上場したばかりということで、お洒落かつ華やかな雰囲気だ。しかし、同サイト担当の事業企画本部長・加藤秀樹氏に話を聞くと、「ふるなび」関連の社員は地

方に足を運ぶドサ回りの日々だという。「14年にサイトを立ち上げて以来、北は北海道、南は沖縄まで全国各地を飛び回っています」（加藤氏）。靴をすり減らしての営業、新興IT企業には不釣り合いな印象があるが、同サイトを運営するチームのうち、システム面を担当するスタッフを除く5人ほどが日々地方行脚をしているとか。「民間と自治体では文化が違いますし、立ち上げ当初は事業内容を理解してもらうのにも苦労しました。ただ、信頼関係を築くためには足を運んで顔を合わせるのがベスト。実際に食をすることで返礼品PRのイメージも湧きますし、無名だけど、地元では普通」な逸品を見つけるのが仕事なんです」（加藤氏）。もはや「グルメハンター」のようだが、その苦労が実り、現在では約80の

自治体が登録。中長期的には500自治体の登録を目指している。「ふるさと納税そのものの認知度も上がり、人気自治体はPRもうまくなっています。今後は実際、現地に行く人も増やしていきたいですね」（加藤氏）。地方創生が謳われる今、まだまだ成長が見込めそうだ。

目標値	1500円
買い時額	800円
損切り	600円
PER	14.71円
PBR	3.23倍
配当利回り	0%



10月27日に新規上場

セレス

マ -3696

「フィンテック関連スマートフォンメディア広告事業……。最近増えている事業形態ですが、ビットコインサービスを提供しているレジュブレスなど、いろいろな企業と提携している点が特徴的」と田代氏が語るの、セレス。はたしてどんな企業なのか?

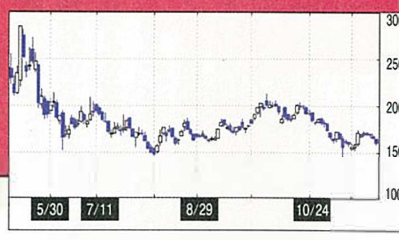
さっそく、南青山にあるオフィスを訊ねると、立地も相まって、お洒落なカフェのような雰囲気に驚かされる。「IT企業なので、できるだけ社員がクリエイティブに働ける環境にしたかったんです」と語るの、代表取締役社長の都木聡氏。社内を見渡すと、ノ



「どこのオシャレなカフェですか……」と言いたくなるクリエイティブな雰囲気は、新サービスの開発に表れていた

ITPCを手に、カジュアルな服装で歩き回る社員の姿が、意識高そう……。同社の主要事業は国内最大手の「モ

目標値	3000円
買い時額	1500円
損切り	1000円
PER	44.2円
PBR	6.49倍
配当利回り	0%



ツピー」、「モバトク」、「お財布coin」などのポイントメディアの運営だ。

「Web上に広告を掲載し、閲覧や申し込み、来店したユーザーにポイントを付与する、いわゆるO2Oサービスですね」（都木氏）

と、ここまではよくあるIT企業。冒頭で田代氏が話したとおり、セレス

がユニークなのは、常に提携企業と新しいサービスを生み出している点。その最新例が、東大発のベンチャー企業・ジャノムと共同開発された「Coin Tip」だ。「アーティストの動画を見て、投げ銭

をしたり、海外の慈善団体に寄付をするなど、ツイッターのアカウントさえ持っていれば、誰にでもビットコインを送金できるサービスです」（都木氏）。社内の創造力に満ちた空気は、こういったコラボに反映されていたのだ。

フィスコが選ぶオススメ3銘柄

ここまで名前は聞くもののイメージ業務内容のイメージは湧かない……。という企業を紹介してきたが、最後にフィスコ田代氏のオススメ銘柄を3つ選んでいただいた。

まずは「メディカル・データ・ビジョン」（東13902）。主な事業内容は病院や健康保険組合向けの経営システムの提供といった専門色の強いもの。しかし、過労問題が社会的に注視され、企業が社員の健康状態を把握したいという需要が高まったことで、新たに注目が集まっています。

続いては建設系の「不動テトラ」（東11813）。「名前のとおり、港湾関係の整備を手掛ける企業です。しかし、キーワードは「訪日客」と「カジノ」。当然、地域にもよりますが、カジノリゾートが誕生し、観光客が増えれば、港湾インフラの需要も高まります」

そして最後は同じくインフラ系の「地盤ネット」（マ6072）だ。「調査と工事、両方受け持つ企業が一般的ですが、改良工事を受注しない唯一の地盤調査会社。また、無料で地盤リスクを確認できるメールサービスなども行っています。当然、地震に対する不安が強くなれば株価にも影響します。日本ならではのビジネスですね」

カジノ向けモバイル決済サービス

「アプリやサイト開発を行うIT企業ですが、注目したいのはカジノ向け決済システムを開発しているところ。カジノ関連では一番入りやすい銘柄だと思います」と田代氏が語るテックファーム。どうやら手広くIT関連の事業を行っているようだ……。

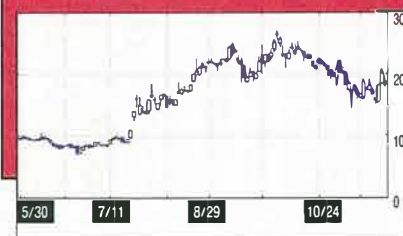
東京オペラシティタワーにあるオフィスを訪れると、入り口にはペッパ



既に海外での展開を始めていることから、IR法案の動向によっては日本国内でもこのシステムが注目されるかも

も持っているようで、ますますどんな企業なのか興味をそえられる。また、フロアも事業内容の幅広さに比例してか、ここまで訪問してきた企業より一回りも二回りも広い。「弊社はコンサルティングからシステムの開発、その後の運用まで手掛けているのが強みなんです」（コーポレート本部の松本太氏）というのが、その理由だ。「外国人観光客の増加によるインバウンド需要が高まっていますが、それに伴ってホテルの客室設置型のタブレットサービスなども行っています。具体的には周辺の飲食店を検索したり、フロントから情報発信ができるシステムです」（松本氏）

目標値	3000円
買い時額	1500円
損切り	800円
PER	11393.75円
PBR	5.91倍
配当利回り	0.16%



カジノ関連株は思惑的な動きが多いが、この銘柄は既に活動している状態。来年度、IR法案が進展する可能性もあるので、その動向に注目